

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

15

町内会活動の 見直しに着手

検討委員会実施

桜丘南町内会

横尾勝博 (よこお かつひろ) 会長

桜丘南町内会は博多区に隣接する自然豊かな住宅地です。昭和40年代から50年代初めに桜丘団地として開発され、その一つとして桜丘南町内会が誕生しました。現在は、年齢層別では70代が最多となり、住民の高齢化が進む一方、新しい世代の流入で世代交代も進んでいる町内会です。



実感した役員選考の大変さ 役員不足の現実と改正への思い

桜丘南町内会に住んで30年以上になります。町内会では5～6年毎に回ってくる役を経験し、そのほかの体育部長や子ども育成会役員も合わせると、数年に1回、何かの役を引き受けていました。

役員選考委員長を任されたり、総務部長を引き受けたりする間、毎週末に候補者の家を訪ねて打診をして周りました。3か月ほど続けても決まらないことに責任を感じ、自分が会長を引き受けるしかないかと思い、町内会長になりました。

自分が会長を引き受けるなら、今まで気になっていたことに着手しようと考えました。それは、町内会の役の見直しです。何度か組長を経験している中で、配偶者が亡くなった、高齢であるなどの理由で「役を引き受けられないから、町内会を脱退する」という方が増えてきました。そうすると組に残った世帯で役を分担するため、早く役が回ってきて負担が増える悪循環になっていました。この仕組みを改善してほしいと町内会の総会で伝えてと言われ、組

長の時に何度か伝えましたが、変わらず、役を引き受ける人からは「たまらない」と不満の声があがっていました。組を合併するなど考えましたが、どちらかに頼る関係になるため、実行できないままでした。いずれ合併するにしても、その前に役員選考で、組から選出する役を減らせないかと考えて、仕組みを見直し、会則の変更をしようと思いました。



まちづくり支援室に相談 「事業見直し検討委員会」発足へ

まちづくり支援室に相談したところ、会則の変更からではなく「活動を見直す」ことを出発点とし、課題を話し合いであぶりだしてから、運営体制を考えていくのはいかがでしょうかと助言をいただきました。

そこで、コロナ禍で総会ができなかったため、まずは意見のある人はいませんかと呼びかけ、座談会を実施することにしました。その後、出た意見を引き継いでいくために、組長経験者や町内会活動者に声をかけ、町内会の3つの地域から、子育て、高齢、現役世代を偏りなく人選して、「事業見直し検討委員会」を発足させました。



第一回 事業見直し検討委員会の様子



前例踏襲をやめたら 本当に必要な行事がわかった

座談会では、「毎月実施の資源回収が体力的にきつい」「組の役をしたくない、高齢でできない」「若い世代が行事に参加しにくい」といった様々な意見が出ていました。これをもとに、委員会では町内会の行事の中で本当に必要なものは何かを話し合いました。すると、資源回収、草取り（クリーンアップ）、防犯・防災に関わる行事は実施していこうと決めました。住民同士のふれあいの行事については、意見が分かれました。夏祭り、グラウンドゴルフ、町民運動会、バスハイクなどですが、「あったらいいな」と思うけれど、準備・片付の負担、役員の疲労感も大きいという意見でした。

ふれあいの行事は大切だという共通意見はあるものの、やれば楽しくても「必要か」という視点で考えたら、必ず必要な行事ではないと結論付けました。



町内会行事は、行事・イベント型 から生活・福祉型へシフトする

必要か、必要でないかの議論を進め行事の見直しをしたあと、町内会の運営体制を見直し、以前は組からの役員選出は3名（組長、福祉部、体育部）必要でしたが、組長と副組長の2名選出としました。それに伴い、福祉部と体育部は廃止しました。

行事も、グラウンドゴルフは各組対抗から有志による実行委員会形式で開催します。バスハイクと夏祭りは休止しました。行事と予算ありきではなく、やりたい人がやる。住民の声が大きくなったら、予算もつけるというやり方です。予算の問題は、今か

らルール作りなど、整備もいるでしょう。実行委員会形式で行事をするので、決められた予算で実施するのではなく、前の年度から予算も含めて計画する必要がありますね。誰かしませんかでは、なかなか進まないでしょうから、初めは執行部が伴走したり、旗振りをする必要があると思っています。

生活や福祉型の取り組みとして、新たな見守り活動を始めます。コロナ禍で見守りや声掛けがおろそかになっている危惧があり、実施しようとなりました。今年から、組長と副組長が地域を散歩しながら挨拶をする程度の目配りを、月に1～2回始めます。5～6年続けたら、組の皆さんが見回りを経験して情報がいき渡り、非常に効果があるでしょう。

今までの行事は、組長が担っていて、負担も大きかった。これからは、年に1回ぐらい参加しめんと住民に声掛けをして、行事を続けられたらと考えています。実行委員会形式の良さとして、ノウハウが継承されていくことを狙っていきたいです。



新たな課題と これからの町内会活動

町内会の行事をやめるだけではなく、続け方を考え、今までの行事運営や、組織体制の見直しをしました。その結果、個人の参加の意思を尊重しすぎるあまり、新たな行事が生まれないのではないかと懸念があります。これからの町内会活動のために、どう人の資源を発掘して、地域とつないでいくかを考えています。子育て世代の人たちに地域の行事の面白さを体験して欲しい。それを見て育つ子どもたちへと、行事を継承していく循環を作ってきたいです。個人の参加の意思を尊重しながら、仕事と家庭だけでなく、地域社会のネットワークの中に、自分の役割を発見してほしいですね。



取材を終えて

支援室では、「事業見直し検討委員会」実施にあたり、相談を受けた後も、会議の進行や記録の補助として、必要に応じてフォローに入りました。

委員会を発足させ、各世代から意見を集める方法は、事業の見直しに非常に有効だと感じました。

